

平成 23 年度
第 4 回理事会だより

日 時：平成 23 年 10 月 22 日(土)12:00～15:00
場 所：日本臨床検査医学会 事務所
出席者：宮澤幸久理事長，高橋伯夫副理事長，
矢富 裕総務理事，村田満会計理事
米山彰子庶務理事，
登 勉，村上正巳，前川真人，ㄨ谷直人，
藤田清貴，渡邊直樹，賀来満夫，
尾崎由基男，岡部英俊，山根誠久 各理事，
中原一彦，一山智 各監事
小出典男 2011 学術集会長（以上 18 名）
欠席者：諏訪部章，宮地勇人，横田浩充，北島勲，
日野田裕治，各理事(5 名)

会に先立ち，宮澤幸久理事長から挨拶があり，体調不良のため高橋伯夫副理事長が議長となることが提案され，承認された。

冒頭に，功労会員の伊藤機一先生(平成 23 年 8 月 20 日逝去 享年 69 歳)，評議員の近藤信一先生(平成 22 年逝去 享年 59 歳)の逝去を悼み黙祷が捧げられた。そして，登勉 理事，渡邊直樹 理事を 議事録署名人に指名して平成 23 年度第 4 回理事会の議事を進めた。

【報告事項】

1. 支部報告

各支部報告の支部例会・総会予定，支部地方会予定などについて報告された。

支部総会・例会の予定

北海道支部報告

第 45 回支部総会

日 時：平成 23 年 11 月 5 日 12:30～18:00
場 所：旭川医科大学臨床第 3 講義室
総会長：伊藤喜久(旭川医科大学臨床検査医学講座)

関東・甲信越支部報告

第 23 回支部総会

期 日：平成 23 年 12 月 3 日(土)13:20～
場 所：順天堂大学本郷キャンパス 10 号館 105
カンファレンスルーム
総会長：三井田孝教授(順天堂大学医学部)

東海・北陸支部報告

第 51 回支部総会

(第 22 回臨床化学会東海・北陸支部総会<総会長石井潤一>との連合大会)

期 日：平成 24 年 3 月 11 日(日)

場 所：国際医療福祉大学小田原保健医療学部

総会長：ㄨ谷直人(国際医療福祉大学熱海病院)

第 31 回支部例会

(第 23 回臨床化学会東海・北陸支部総会<総会長北島勲>との連合大会)

日 時：平成 24 年 8 月 4 日(土)9:00～16:00

場 所：富山国際会議場

例会長：北島勲(富山大学)

臨床分子病態検査学 教授)

近畿支部報告

第 54 回支部総会

期 日：平成 23 年 10 月 29 日(土)

場 所：ピアザ淡海 6 階 クリスタルルーム

総会長：日高 洋(大阪大学 教授)

中国・四国支部報告

第 57 回支部総会

期 日：平成 24 年 2 月 4～5 日

場 所：岡山大学医学部臨床第二講義室

総会長：村尾孝児(香川大学 教授)

九州支部報告

第 57 回九州地方会

(第 23 回臨床化学会九州支部総会と合同開催)

期 日：平成 24 年 2 月 11 日(土) 8:30～18:00

場 所：福岡大学メディカルホール

(福岡市城南区七隈 7-45-1)

総会長：松永 彰(福岡大学医学部)

臨床検査医学講座)

2. 各種委員会報告

A. 編集委員会

(矢富 裕 委員長，宮地勇人 担当理事長欠席)

1. 2011 年 1 月開始の新査読体制は順調に稼働して

いる

- ・ 投稿総数 52 編(新規 37, 再投稿 15)
- ・ 受理総数 37 編(2011 年投稿分 22 編,
..... 2010 年投稿分 15)
- ・ 返却総数 1 編
- ・ 結果的に一人の査読委員の結果に基づいて判定した論文数 6 編

2. 下記の特別総説・寄稿をいただくことになった

- ・ リウマトイド因子標準化に関するガイドライン
熊谷俊一先生(神鋼病院)
- ・ 東日本大震災対策委員会における活動報告
坂本秀生先生(神戸常磐大学保健科学部)

B. 標準化委員会(前川真人 担当理事)

1. 治験検査標準化 WG の報告書を雑誌「臨床病理」に投稿した。
2. すでに立ち上げが了承されていた基準範囲共用化合同 WG が発足した。
第一回会議は 10 月 7 日に開催予定。発足メンバーは以下の通り。

- 市原清志(山口大学)
- 細萱茂美(香川県立保健医療大学)
- 石橋みどり(慶應大学)
- 堀田多恵子(九州大学)
- 山本慶和(天理よろず 병원)
- 宮地勇人(東海大学)
- 伊藤喜久(旭川医科大学)
- 康 東天(九州大学)

3. 第 1 回合同基準範囲共用化 WG 議事録(案)
2011 年 10 月 7 日 17 : 00-18 : 00
横浜パシフィコ 513 号室
出席者 : 市原, 伊藤, 石橋, 細萱, 堀田,
山本, 康
欠席者 : 宮地

議題 :

- (1)学会連絡担当委員の選任
石橋(臨床化学)細萱(日臨技), 康(検査医学),
宮地(検査血液)
- (2)目的
これまでの研究データおよび各施設で使用されている基準範囲に基づき, 日本全国において共用可能な臨床検査値基準範囲の策定を行い, 各種機関団体に提案する。

(3)活動方針

(i) 実証的エビデンスに基づいた基準範囲の策定
実証研究データに基づいて策定可能項目について, 共用基準範囲を策定する。

(ii) 実用的に許容可能な共用基準範囲の策定
必ずしも実証的エビデンスはないが, 当面実用共用基準範囲を策定することが有意義と考えられる場合, 使用目的に応じて実用上許容可能な共用基準範囲を策定する。学生教育用, drug safety 等。

*特に実用的に許容可能な共用基準範囲とは何かについて長い時間をかけて討議を行い, 診療現場, 教育現場のニーズを考慮した値の設定であり, 臨床検査医学的, 統計学的に定義された基準範囲と異なる点について, 明確な説明を付記する必要がある事でおおよその意見の一致を見た。

(4)SWG の結成(○は責任者)

実証的エビデンス SWG : ○市原, 伊藤, 細萱, 山本, 堀田, (康)

市原委員より, 除外基準の設定のための検体提供者の条件に関するアンケートの報告があった。

次回 WG までに, 日臨技, 福岡 5 病院のデータを市原委員に送り, アジアのデータと合わせ統計処理する。

実用基準範囲 SWG : 石橋, ○堀田, 宮地, 細萱, (康)

現時点で具体的活動内容の議論はされなかった。

(5)旅費などために活動費用の申請を考える

その他 :

厚労省/PMDA 医療情報データベース基盤整備事業において検査値共用化委員会を立ち上げることが議論されていることが康委員から報告された。

次回 WG 日程案:11 月 17 日 17 : 00-20 : 00 臨床検査医学会会場

C. 精度管理委員会(沢谷直人 担当理事)

1. 2012 年度 CAP サーベイについて
2012 年度 CAP サーベイ募集を開始した(10 月 17 日)。

2. 2011 年度精度管理委員会・議事録

日時 : 2011 年 10 月 8 日 12:00~13:00

場所 : パシフィコ横浜 会議センター 421 号室

議題 :

1. 「外部精度管理の在り方について」
2. 測定前プロセスの標準化について
3. 2011 年度 CAP サーベイ事務局報告
①2011 年度 CAP サーベイ経過報告

②2012年度国際臨床検査成績評価プログラム計画

③2012年度 IVD グローバルニュース発行計画

出席者：

委員：宮地勇人(東海大学)，
 谷直人(国際福祉大学)，
 前川真人(浜松医科大学)，

事務局：Mark・A・Colby, 大野紘宇, 齋藤和延,
 平野亜輝子, 清 康一 [文責] (CGI)

オブザーバー：Marcia Geotsalitis(CAP),
 八木秀志(宇宙堂八木書店)《敬称略》

議 事：

1. 開催挨拶

- ・精度管理委員長挨拶(宮地委員長)
- ・CAP サーベイ事務局代表挨拶(Mark・A・Colby)
- ・CAP Senior Vice President 挨拶(Marcia Geotsalitis)

2 「外部精度管理の在り方について」討議

①外部精度管理の現状が確認された。

- ・日本医師会, 日臨技, 労衛協, CAP サーベイ実施要綱の現状調査結果が次の視点で確認された。
- 検査項目数, 参加施設数, 年間実施回数, 送付時期等の比較

②「現状の問題点」として下記が挙げられ討議が行われた。

- ・実施時期に関し, 各サーベイが重ならないことが必要であり, 複数回実施していく必要もある
- ・実施項目に限られており, 緊急検査項目, 特殊項目, 新規検査項目等でサーベイに導入されていない項目に対し, 今後, 追加導入する検討が必要である。
- ・特殊項目で外部精度管理には無い項目に対する, 代替法等の情報発信を行なう必要がある。

③新規項目・特殊項目で外部精度管理を実施していない項目の代替法について

- ・新規項目, 特殊項目に関しても, サーベイ対応可能なように働きかけていく必要がある。(日本医師会でも検討中)
- ・検査実施施設は, 特殊項目でもサーベイ項目があるものは, サーベイに参加することが必要である。
- ・サーベイに項目がなく施設内で技能試験が利用できていない項目に関しては, 何らかの代替方法を実施すべきである。遺伝子関連検査に関する日本版ベストプラクティスガイドライン等に定めてある方法等を参考にする。

3. 測定前プロセスの標準化について

検査手順に限らず, 「分析前・後段階の品質保証」についての指針に基づき, 実施運営していくことが重要である。

- ・検査依頼から検体受付までの必要事項

・検査室の受け入れから分析までの手順

・検査終了後の手順と結果報告

・検体の保存と廃棄

・「健康診査における精度管理の在り方」

測定精度の確保には, 測定前プロセスの標準化が必要で, そのためのマニュアル整備を本委員会で検討したい。来期の委員会の活動目標候補とする。内容記述は, 厚労科研事業「健診・保健指導の項目について標準的な検査結果の入力方法・電子様式等の確立に関する研究」での成果, 各都道府県技師会で取得したデータ等のエビデンスに基づくものとする。

4. 2011年度CAPサーベイ事務局報告

CAPサーベイ事務局(以下, CGI)より, 配布資料の内容確認の後, 2011年度の施設参加状況, 申し込み状況および新規サーベイ参加状況について説明がなされた。

①2011年度CAPサーベイ経過報告

- ・現時点での参加施設数は103施設(内, 10施設がトライアル参加)となった。
- ・統計処理上参加施設数が少なく「評価されない」施設項目の対応を昨年実施・報告を本会議でおこなった。その追跡を本年度も実施した。結果, ほぼ昨年同様の結果を得られたが, さらなる改善のために個々の施設に適切な機種コード選択, 項目コード選択の案内を行っていく。

②2012年度国際臨床検査成績評価プログラム計画

- ・「2012年度CAP国際臨床検査成績評価プログラム案内」を10月中旬に発送する。発送の際に, これまでの配布先に加え, ISO15189取得施設, 治験実施先へも案内する。(リスト化する)
- ・CAP側から, 治験に関してCAPサーベイは必須規則ではないが, 製薬メーカーやCROの視点から見ると, 参加している方が有利に働く旨のコメントがあった。

・2012年度よりセットオーダー形式を廃止し, プログラム毎に選択できるようになるため, 必要な検査だけがオーダーできるようになる。

- ・2012年度より遺伝子関連の新規項目を導入する(新規項目なので表記をわかりやすく記載する)。
- ・遺伝子検査項目の導入の試み等はIVDグローバルニュース等でも紹介していくことが必要(特殊項目の導入が可能であることの認知度を上げるため)。

③2012年度IVDグローバルニュース発行計画

- ・現在の季刊発行(春・夏・秋・冬号)から, 2012年度より6回発行が検討されている。
- ・過去の連載記事を集めたものを取り上げ掲載する。
- ・IVDグローバルニュースを電子化(iPad, Android, PC等での閲覧可能)にしたものの発行を計画してい

日本臨床検査医学会ニュース

る。これら発行計画については、理事会に諮る。

D. 検査項目コード委員会(村田 満 担当理事, 委員長)

1. JLAC10 コード(臨床検査項目分類コード)の新設
平成 23 年 8 月及び 9 月新規保点取載項目について
検査項目コード委員会内の電子メール回議にて検討
し、下記 2 項目の JLAC10 コードを新設した。

(1)新設分析物コード：3B081

新設分析物名称：

ALP アイソザイム(プロテアーゼ処理法)

新設結果識別(固有)コード：

51~59 [ALP アイソザイム(3B080)準拠]

設定日：2011 年 9 月 29 日

(2)新設分析物コード：5A141

新設分析物名称：遊離 L 鎖 k /1 比

新設結果識別(固有)コード：

51k 鎖, 52l 鎖, 53k/1 比

設定日：2011 年 9 月 29 日

JCCLS 用語委員会との合同委員会で、標準検査名称と標準検査法の設定規則と案が検討され、それぞれを臨床検査医学会の各専門の先生にご意見を頂いたうえで、内保連の加盟団体と臨床化学会、臨床検査専門医会、遺伝子診療学会にパブリックコメントを10月初旬を締切として求めたことが報告された。

E. 遺伝子委員会(横田浩充担当理事, 宮地勇人委員長とも欠席のため, 村田満 理事)

1. 2011年度第1回日本臨床検査医学会 遺伝子委員会開催について

(第58回日本臨床検査医学会学術集会に合わせて開催)

議題予定

- ①日本医学会「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」公表について
- ②日本臨床検査医学会等3団体「ゲノム薬理学を適用する臨床研究と検査に関するガイドライン」公表について
- ③日本臨床検査医学会等5団体「ファーマコゲノミクス検査の運用指針の改訂版」公表について
- ④JCCLS「(日本版)遺伝子関連検査に関する日本版ベストプラクティスガイドライン」公表について
- ⑤JCCLS「遺伝子関連検査の検体品質管理マニュアル承認文書」策定について

⑥平成24年度保険診療報酬改定に向けて

⑦その他

資料：ガイドライン情報は下記サイト

<http://jams.med.or.jp/guideline/genetics-diagnosis.html>

<http://jccls.org/techreport/05.html>

F. 東日本大震災対策委員会(鵜谷直人 担当理事)

1. 調査票の回収と確認

7月22日に当学会を通じて支援を行った支援物資の使用状況を把握するために調査票の発送を一齐に行い、その回収作業を9月上旬まで行う。多くの施設では8月中旬までに回答を頂いたが、回答がない施設もあった。そこで委員が手分けして、個別に電話等で確認作業を行い調査票回収に務めた。

2. 第三回東日本大震災対策委員会の開催 9月22日

支援物資調査の結果、一部の施設では支援物資の継続的な利用を望んでいるが、多くの施設では当初の支援目的が達成され現在は使用されていないことを確認した。

そこで、貸与した機器の返却もしくは使用期限につき、機器を提供された企業より直接確認をとって頂ける手続きの準備を開始するよう連絡を行なうことを決定。

調査票の回収結果から支援活動が収束に向かうに際し、これまでの活動を「臨床病理」を通じて会員に報告できるよう準備を開始。

3. 日本学術会議へ提出する報告書の作成

これまでの本委員会の活動記録を45ページの間
中間報告書としてまとめ、学会事務局を通じて提出。

4. 第四回東日本大震災対策委員会の開催 10月7日

第三回委員会にて方針を定めた「臨床病理」への執筆内容を及び分担を決定する。本活動を通じて得た知見と経験を元に「災害時における臨床検査支援」に関する提言書を作成する方針とする。

5. 宮城県訪問計画の立案

これまでに震災直後の被災地視察として岩手県を訪れ、支援の途中経過の確認として福島県をそれぞれ訪問した。調査票の回収結果から支援活動の収束を開始することにより、本委員会の役目にも一区切りがつつきつつある。そこでこれまでの支援成果を確認する目的も兼ね、今後も支援を希望している宮城県気仙沼市を訪れることとし、宮城県への訪問を計

画した。11月9日に東北大学病院視察及び意見交換会、10日に沿岸部の被災地への訪問を予定。

3. 第58回日本臨床検査医学会学術集会報告

(小出典男 会長)

平成23年11月17日(木)～20日(日)に岡山コンベンションセンターで開催予定の第58回学術集会のプログラムが示され、多くの方への参加が要請された。

4. 第59回日本臨床検査医学会学術集会報告

(一山 智 会長)

平成24年11月29日(木)～12月2日(日)に国立京都国際会館で、「臨床検査の再生(仮)」というテーマで開催予定であること、学術企画などについて報告された。

5. 第60回日本臨床検査医学会学術集会報告

(荏原順一 会長 に代わり 高橋伯夫 理事)

平成25年10月31日～11月3日に、神戸国際展示場で、荏原順一会長のもと開催予定であることが報告された。

6. 第58回学術集会での60周年記念式典について

(高橋伯夫 副理事長)

第58回学術集会(岡山)11月18日(金)13:20～14:20に、当会60周年記念式典・記念講演会を行うことが報告された。元会長櫻林郁之介先生と前理事長渡辺清明先生に「10年を振り返って」という題でご挨拶を、そして、俳優で臨床検査のイメージキャラクターの八名信夫氏に記念講演として「脇役人生」という題でご講演頂く予定であることが報告された。

7. 第12回ASCPaLM報告(高橋伯夫 ASCPaLM会長)

平成24年11月29日(木)～12月2日(日)第59回学術集会の際に、京都国際会議場で第12回ASCPaLM会議を開催する予定であることが報告された。

8. 平成24・25年度委員会委員長、委員について

(村田満 次期理事長)

平成24・25年度委員会の構成等は、次期執行部で検討する予定であるが、本年度で、現在の委員会

の委員長と委員で在任期間が4年満了となる場合は、委員会細則第6条により「委員長、副委員長、委員の任期は2年とし再任を妨げないが、引続き4年を超えてはならない。」と定められているため、第58回学術集会時に開催される委員会で、該当する委員会には次期委員長の推薦の検討のお願いが担当理事になされた。なお、別途、委員会委員長にはメールで依頼をする。ただし、推薦された委員長が他の委員会と重複する場合もあるため、次期執行部で委員会の継続、統廃合等と合わせて調整を行う予定であることが報告された。

9. 臨床検査振興協議会「臨床検査の日記念講演会」への参加について(尾崎由基男 記念日イベント企画実行委員)

企画会議で検討された内容の報告があり、平成23年11月11日に開催される臨床検査振興協議会主催の「臨床検査の日記念講演会」への多くの方の参加依頼がなされた。

10. その他

学術集会での展示開催を含めての開催の在り方が協議され、関係団体との関係もあるため結論には至らず継続審議となった。

【審議事項】

1. 第57回学術集会収支報告について

(宮澤幸久 第57回学術集会会長)

平成22年9月9日～12日に東京で開催された第57回学術集会の収支報告がなされ、承認された。

2. 平成24・25・26・27年度理事長、理事・監事選挙結果等について(谷直人 選挙管理委員会委員)

理事長、理事・監事選挙について、それぞれ、6月29日、9月14日開票の結果、理事長として村田満先生が、理事として、米山彰子先生、安東由喜雄先生、佐守友博先生、北島勲先生が、監事として高木康先生が選出されたことが報告され承認された。

また、今般の選挙での疑義について指摘され、会則改定委員会で検討して頂くよう申し入れがなされた。この疑義については、委員会に諮問することとなった。

3. 副理事長、指名理事、常任理事について

(村田 満 次期理事長)

次期役員、副理事長として選挙選出理事の安東由喜雄先生、指名理事として矢富裕先生、尾崎由基男先生、藤田清貴先生、横田浩充先生、常任理事として矢富裕先生(総務担当)、前川真人先生(会計担当)を選任したい旨報告され、承認された。

4. 平成 24・25 年度支部理事について

(高橋伯夫 副理事長)

当会定款により、支部理事の任期は、1 期 2 年とし連続して 2 期までとなっている。平成 24・25 年度の支部理事は下記の通りであり、関東・甲信越支部と中国・四国支部は、次回の支部総会で決定する予定で、11 月 17 日の臨時社員総会では承認を得られない見通しである。北海道、東北、東海・北陸、近畿、九州の各支部の重任、新任の支部理事について承認された。また、関東・甲信越支部、中国・四国支部は来年の定時社員総会で承認を得ることで了承された。

北海道支部	渡邊直樹(重任)
東北支部	賀来満夫(重任)
関東・甲信越支部	尾崎由基男一交代 (2011 年 12 月の支部総会で決定の予定)
東海・北陸支部	北島 勲一和田隆志
近畿支部	岡部英俊一田窪孝行
中国・四国支部	日野田裕治一交代 (2012 年 2 月の支部総会で決定の予定)
九州支部	山根誠久一康 東天

5. 平成 23 年度中間決算報告・平成 24 年度会計予算案について(村田 満 会計理事)

平成 23 年度中間決算報告については、平成 23 年度予算と平成 23 年度中間実績が提示され、一般会計、特別会計、アジア交流基金、学会賞基金、そして、東日本大震災対策費用について説明があり、承認された。

平成 24 年度予算案については、平成 22 年度決算を参考にした提案と説明があり、共催展示会収入については収入の見込みがないため計上されていないことが報告され、致し方ないという結論となった。共催展示会収入が見込めなくなったことを受けて、

第 58 回学術集会の運営資金に不足が出た場合は、学会から補填をすることについても意見交換があった。

特別会計、学会賞基金については、現在、銀行で保障されている 1 千万円を超える金額が定期預金として預けられているが、リスクを回避するため利息が付かないが元金が保障される決済預金への預け替えをすることが提案され、これらを含めて平成 24 年度予算案が承認された。

6. 平成 23 年度事業中間報告について

(矢富 裕 総務理事)

平成 23 年度中間の事業報告がなされ、承認された。

7. 平成 24 年度事業計画(案)について

(矢富 裕 総務理事)

平成 24 年度事業計画(案)の説明がなされ、承認された。

8. 平成 24 年度からの名誉会員・功労会員・社員(評議員)の推薦について(矢富 裕 総務理事)

名誉会員として中原一彦先生、宮澤幸久先生、熊谷俊一先生の 3 名、

功労会員として、関東・甲信越支部から大林民典先生、岡田正彦先生、高宮修先生の 3 名、

東海・北陸支部から吉田治義先生、

近畿支部から朝山均先生、向井正彦先生の 2 名、

中国・四国支部から新谷憲治先生、

九州支部から上平憲先生、

合計 8 名が推薦され、承認された。

そして、評議員として、

北海道支部から清水力先生、

関東・甲信越支部から池田均先生、尾本きよか先生、小谷和彦先生、常川勝彦先生、長嶋洋治先生、春木宏介先生、三橋知明先生、三村邦裕先生、宮島栄治先生、盛田俊介先生の 10 名、

近畿支部から大倉ひろ枝先生、高倉俊二先生、山崎正晴先生の 3 名、

九州支部から橋口昭人先生、合計 15 名が推薦され、承認された。

なお、東海・北陸支部から推薦された 1 名については、細則の評議員選出の条件を満たしていない

め満たしてから推薦頂くこととなった。

れ、承認された。

9. 第61回(平成26年度；2014年)学術集会長の推薦について(矢富 裕 総務理事)

東海・北陸支部と九州支部から推薦があり、両名に立候補声明を提出頂いたが、これまでの開催の順番により、九州支部から推薦された安東由喜雄先生に依頼することとなった。

10. 「全国検査部長・技師長会議に関する取り決め」について(矢富 裕 総務理事)

学術集会時に開催する全国検査部長・技師長会議について、これまで学術集会事務局で案内の通知などをお願いしていたが継続した事務の申し送りができないこと、またリストにない病院などから開催案内を催促されることもあるため、当会事務局で事務作業を行い、開催通知は理事長と学術集会長の連名として発送すること、そして、会議に出席する場合は学術集会への参加登録を必要とすることが提案さ

11. 求人欄の設置について(矢富 裕 総務理事)

大学などからの求人欄を当会の臨床病理誌とホームページに設置すること、そして、依頼があった場合は、常任理事会で確認後、適切であれば掲載することが提案され、承認された。

12. その他

理事会等日程について(高橋伯夫 副理事長)

次回以降の理事会、定時社員総会の日程について確認された。

平成23年度第5回：12月17日(土)正午～

平成24年度 理事会・定時社員総会：

平成24年3月31日(土)正午～・15時～

閉会の挨拶 (高橋伯夫 副理事長)

高橋伯夫副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。